

特許庁・ユーザーズ会合

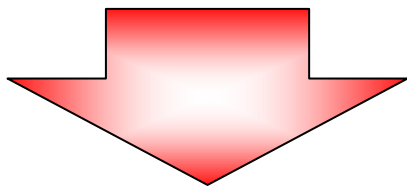


2006年11月16日
日本知的財産協会



グローバルコストリダクション

低価格、低パワーで、
広い地域での特許保護



Same format
Same search
Same examination
Same patent

4 Same

JIPA





JIPA での推進組織

常務理事会

三極ユーザープロジェクト
(西尾リーダー、他 全9名)

国際委員会

数本委員長
内藤委員長
関委員長
他 全108名

特許委員会

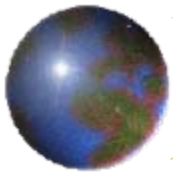
中村委員長
戸田委員長
他 全127名

知的財産情報
システム委員会

見上委員長
他 全32名

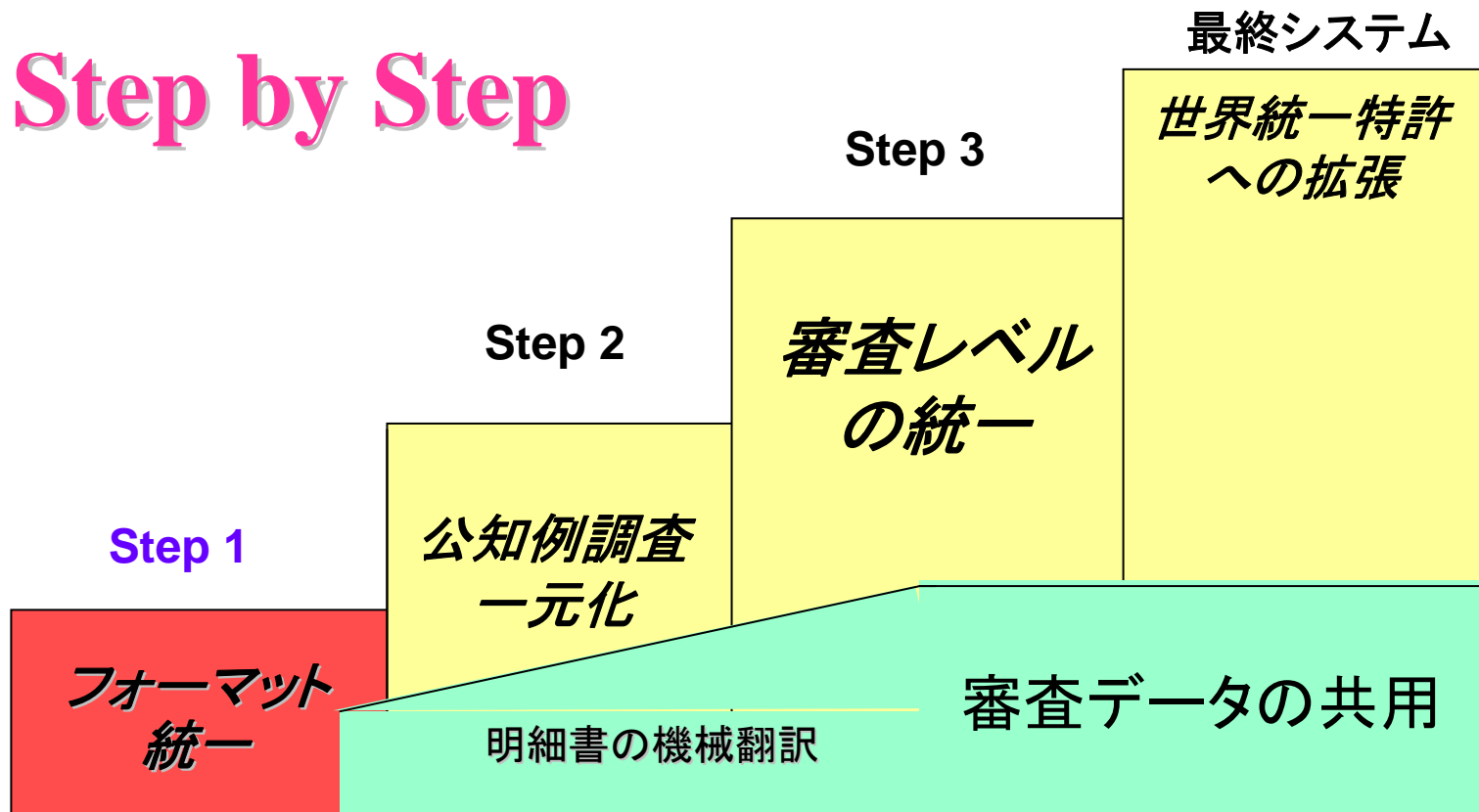
その他委員会

ソフトウェア委員会
情報検索委員会
バイオ委員会、他



第1段階は *Same Format*

Step by Step

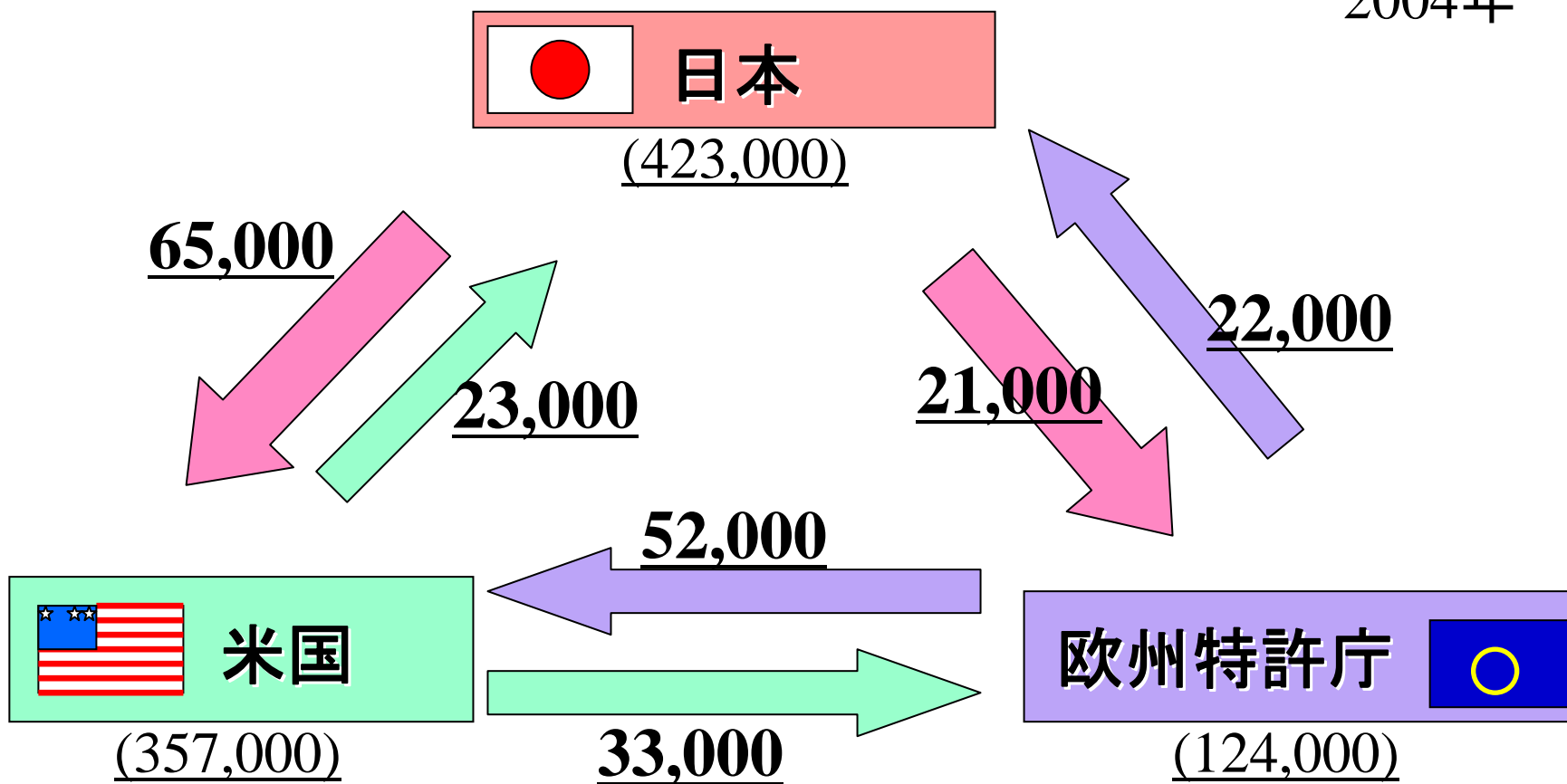


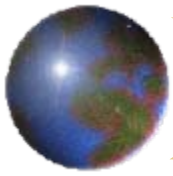


各極間出願状況

- 約 **22万件/年** の出願を各国様式変換中

2004年

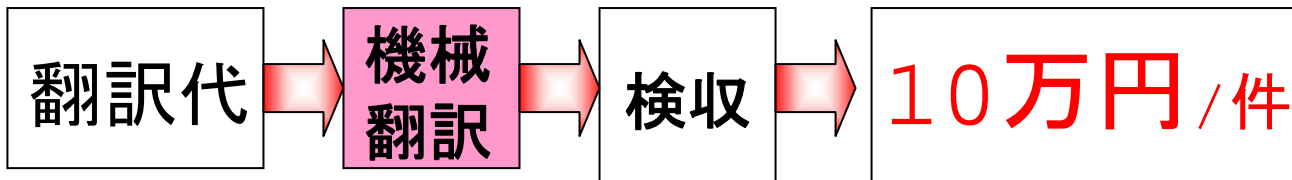
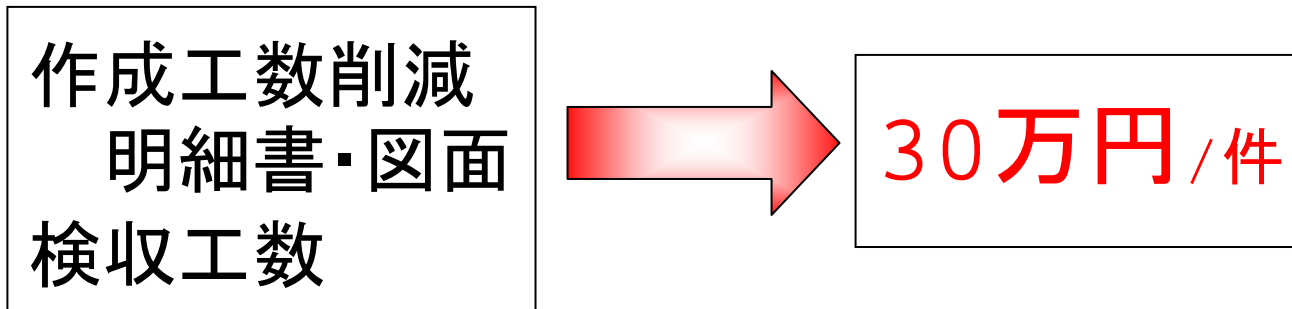




様式統一効果

● 試算目安:

日 ↔ 米・欧 (PCT込み) **220,000**件 (2004:庁年次報告)



Save!! 約 **660億円**/年



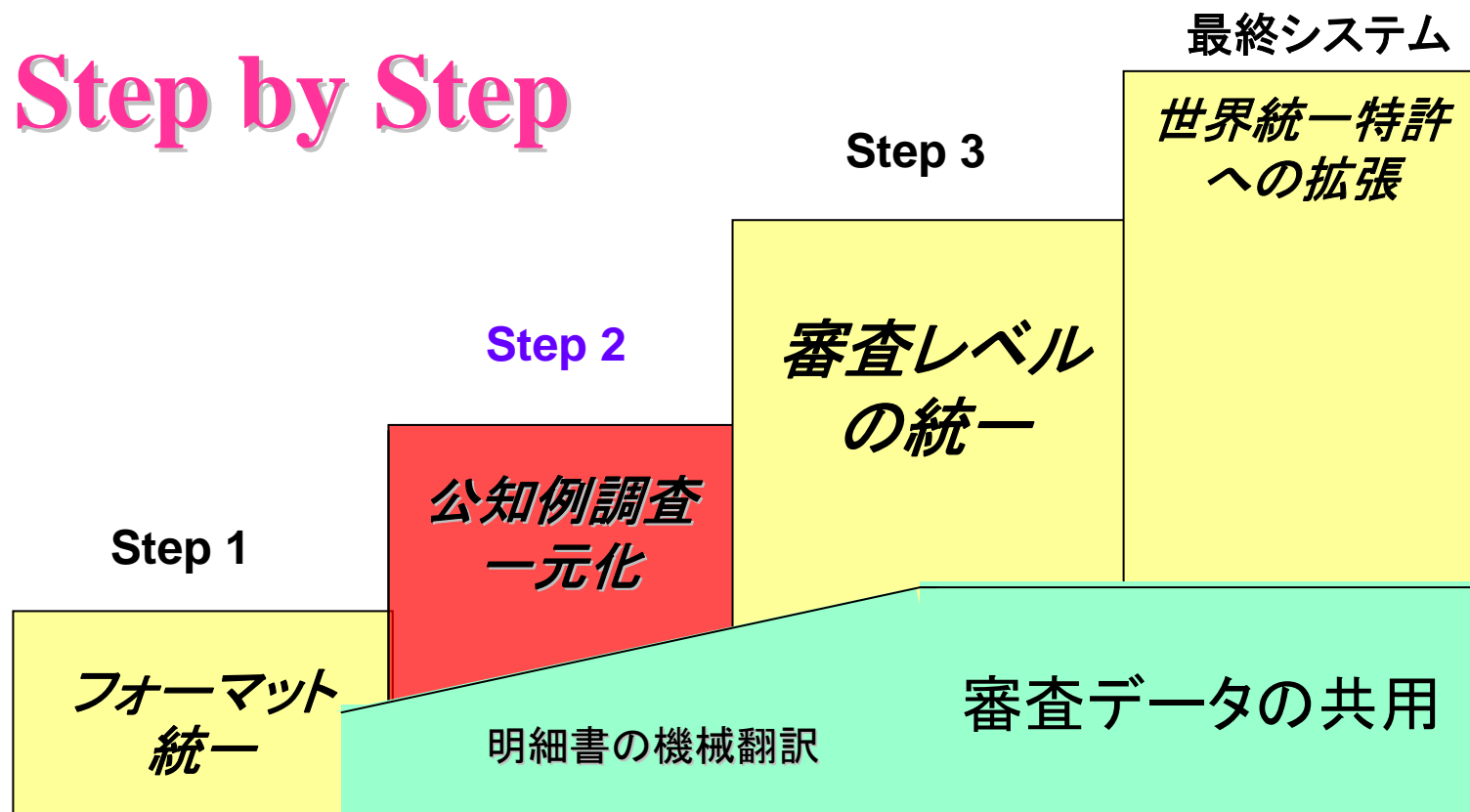
Same Format の効果を引き出す

- 電子出願の規格も合わせる
- 機械翻訳と組合わせて、一層のコストリダクションを達成する



次は *One Search*

Step by Step





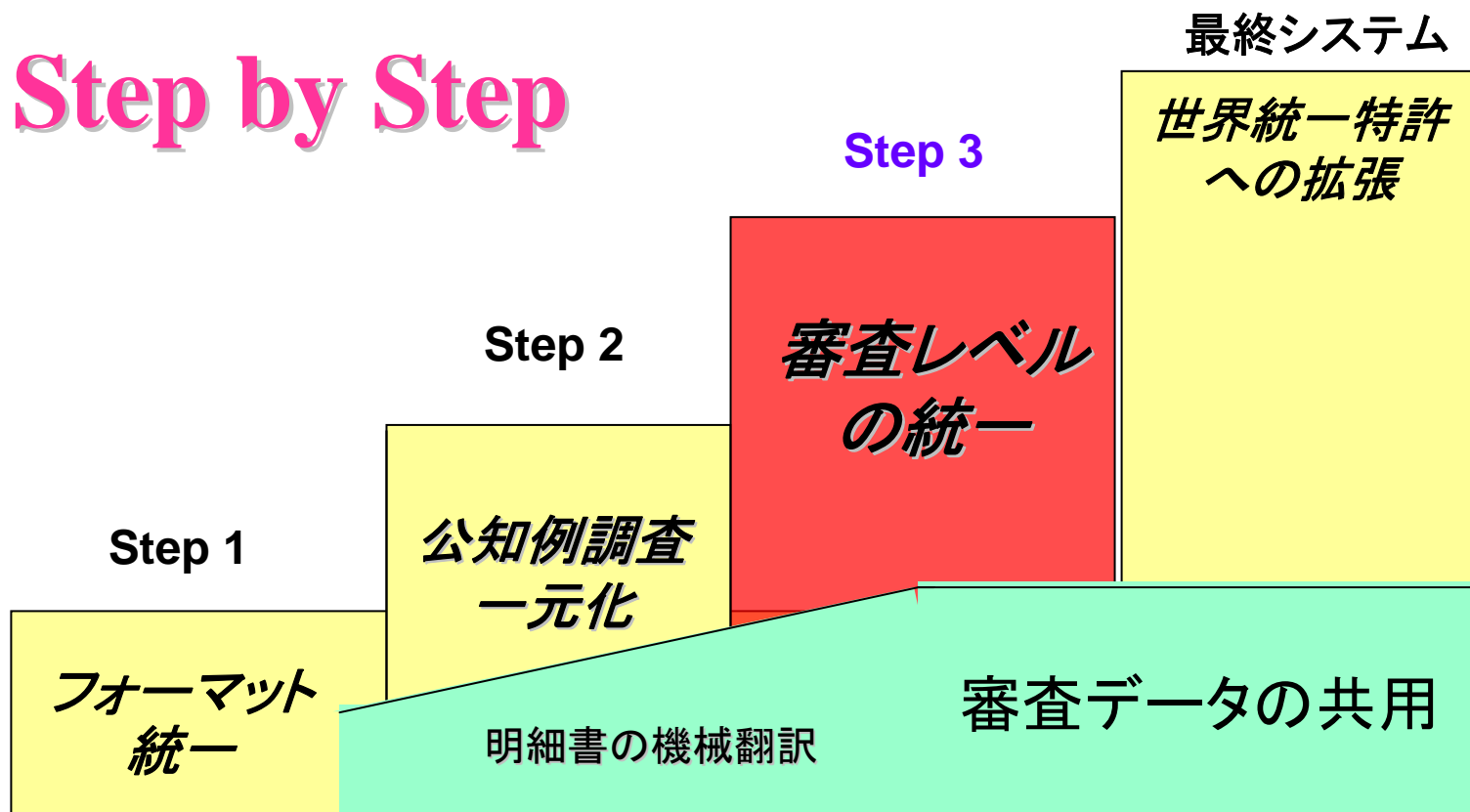
取り組む姿勢

- ここでもStep by Step
⇒ 他極のサーチ結果を如何に活用するか
 - まずはサーチ対象を統一
 - サーチレポートの様式を統一
 - サーチ範囲の共通化
 - 特許分類の統一
- 法改正が必要な案件は適切且つ慎重に
 - グレースピリオド
 - 先願の扱い
 - セルフコリジョンの扱い



更に先を見据えて

Step by Step

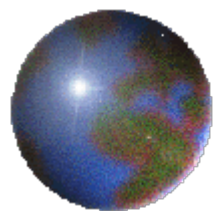




取り組む姿勢

● 将来の布石としての活動

- 三極特許庁間の進歩性判断の統一にむけて
ユーザー視点で進歩性に関する見解を纏める
- 審査ハイウェイ実務をユーザーの立場からサポートする
 - ・サーチ範囲/共用の問題点の抽出
 - ・拒絶理由の出し方
 - ・特許性の判断
 - ・単一性の判断
 - ・記載要件の判断 等



有難うございました。